事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	保健福祉部健康増進課	■担当係	母子保健係
■評価事業名称	思春期保健事業		
■事業開始年度	平成9年度		
■評価事業コード	040200 － 041	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	01　子育てと医療・福祉の充実した明るく健やかなまちづくり	
	■基本施策	03　健康づくりの推進と地域医療の充実	
	■施策	03　市民の健康づくりの推進	
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務		
■法令等の名称			
■関連計画の名称	北上健康づくりプラン、岩手県エイズ対策推進プラン、岩手県自殺対策アクションプラン		
■事業の目的と概要	次代を担う子どもが自分や相手を大切にし主体的に生きていると感じ、生きる力を育む環境が整う。特に平成27年度は、自殺対策事業の若年者の自殺予防対策と一緒に思春期保健講座(児童生徒向け講演会等)を開催。また関係者の思春期連絡会の開催。		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成 27 年度事業計画	平成 27 年度事業量実績
	思春期保健事業	思春期の子ども、保護者及び関係者・一般	思春期保健連絡会　1回 思春期保健講演会　1回	思春期保健連絡会　1回　18人 高校生のためのこころの健康づくり講演会(成人保健係主催)　1回　784人

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
直接事業費	63	8	5	35	
人件費	315	2,290	1,759	1,043	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	378	2,298	1,764	1,078	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	24年度	25年度	26年度	27年度	指標の説明
01	思春期保健連絡会の実施回数	0回	1回	2回	1回	
03	十代の人工妊娠中絶実施率(人口千対　中部保健所管内)	H23/　4.7	H24/4.7	H25/6.4	H26/5.1	人口千対(環境保健研究センター算出による)
04	開催回数コスト	378千円	2,298千円	882千円	1,078千円	連絡会・講座等開催数/フルコスト

05	参加人数コスト	3,405円				参加者数/フルコスト

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- ○ A. 順調
- ◉ B. 概ね順調
- ○ C. 遅れている

達成状況の分析

10代の自殺死亡率が高いことから、高校生を対象とした講演会を実施。合わせて、10代の若者の現状と相談を受けるヒントについて連絡会を実施。

問題点・課題等

10代の自殺死亡率が依然高いことから、継続した事業実施が必要。

1. 直接的な受益者の範囲
- ○ 不特定多数に及ぶ
- ◉ 特定されるが多数に及ぶ
- ○ 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響
- ◉ 大きな不利益やリスクが生じる
- ○ ある程度の不利益やリスクが生じる
- ○ 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無
- ○ 類似の事業はない
- ◉ 類似の事業はあるが競合はない
- ○ 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化
- ○ ニーズが高まっている
- ◉ ニーズは変わらない
- ○ ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)
- ○ 順位が高い
- ◉ 順位が中程度
- ○ 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)
- ◉ 順位が高い
- ○ 順位が中程度
- ○ 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性
- ◉ 先進的またはユニークな事業である
- ○ 他と同程度の事業である
- ○ 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性
- ◉ 民間委託等の拡充は難しい
- ○ 民間委託等の拡充が十分に可能
- ○ 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上
- ◉ 今以上の効率化や改善は難しい
- ○ 効率化や改善を図ることは十分に可能
- ○ 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策

■今後の方向性
- ○ Ⅰ. 拡充
- ◉ Ⅱ. 継続
- ○ Ⅲ. 縮小
- ○ Ⅳ. 廃止・休止
- ○ Ⅴ. 完了